

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」
「組合員への助成活動レポート」

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	福島子ども支援プロジェクト・西多摩
支援対象者・エリア	福島県伊達市周辺
企画開催地	東京都あきる野市周辺（2022年度⇒山梨県北杜市高根町周辺）
企画名称	「夏キャンプ」コロナの為中止 都内での学習会2回開催
実施期間	2022年8月9日～11日（中止）4月10日・2023年2月5日学習会

支援活動の目的・内容・感想

（どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など）

福島原発事故から3年目に「福島第一原発事故の放射能被害から子ども達を守り、健やかな成長を支援する」ことを目標に掲げプロジェクトを立ち上げました。その為、放射線の強い地域から数日も離れて過ごすことにより体内被ばくを避けられ、リフレッシュすることができる保養キャンプを計画しました。例年保養キャンプに招いていた福島県伊達市の子ども達を対象に計画を進めました。

今年は、コロナ禍を避けて山梨県北杜市高根町（調布市立八ヶ岳少年自然の家）を宿泊施設に2泊3日の保養キャンプでした。実施に向け2度の下見をし活動計画もたて、実施10日前にコロナ感染拡大のために中止せざるを得なくなりました。

被災地のこと・被害者のことを理解するために2回の学習会と福島訪問を行いました。

◇4月10日「汚染水を海に流すな」 講師 山崎 久隆さん

- ・汚染水海洋排出の人体への影響が心配されること
- ・漁業者との約束を反故にする理不尽な政策であること

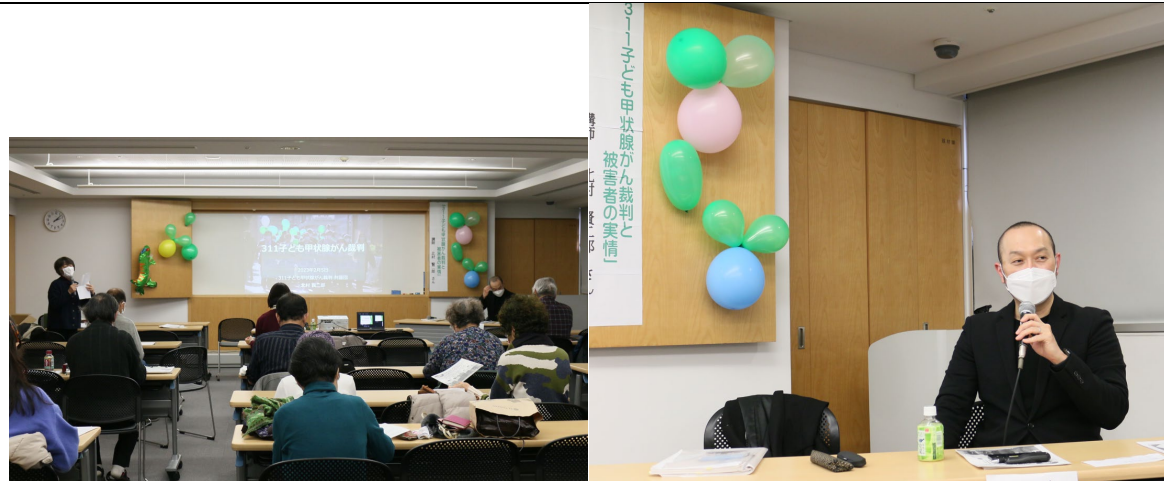
◇2023年2月5日「311 子ども甲状腺がん裁判と被害者の実情」講師 北村賢二郎さん〈弁護士〉

- ・原告の若者達の苦悩と周りに理解されない辛さなどを知った
- ・甲状腺がんは、医学的に原発の放射能と因果関係にあること

◇福島訪問：11月11日～12日

- ・中間貯蔵施設、イノベーション構想地域の見学など
- ・放射能が除去されていない地域強制的に帰還されている
- ・帰還、帰還といってもインフラが整わず閑散とした街

活動の様子（写真など）



↑「311 子ども甲状腺がん裁判被害者の実情」
2023年2月5日

↑講師の北村賢二郎弁護士

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。



↑中間貯蔵施設見学 遠くに望む 事故を起こした原発
2022年11月11日